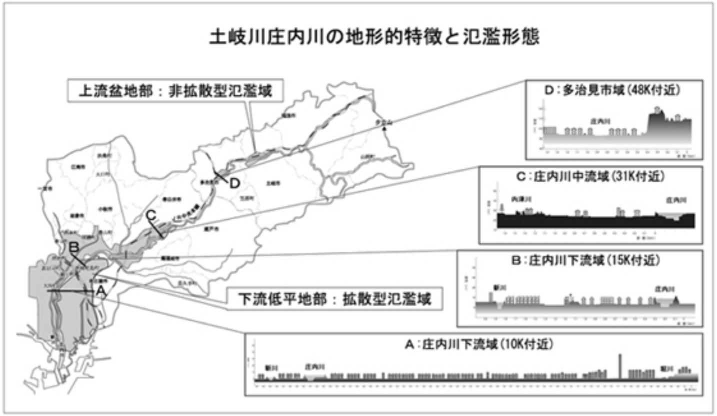
裏の続き→

・計画規模は、枇杷島上流で、重要度A級の1/200、多治見上流で1/100と指定されていますが、そのようになった理由等について、例えば多摩川はどこに位置づけられているかという他河川との比較で説明してほしい。また、河川砂防技術基準（案）に沿ってない河川が結構あると言っていたが、別の考え方で行われている新しい事例があれば、事情や経緯等を対比して紹介してほしい。



・上流域と下流域は、地形、氾濫形態等が違うと説明されましたが（上流：非拡散氾濫、下流：拡散氾濫）、上流と下流で同じ手法で計画されています。違いを強調された理由はあるのでしょうか。

・基本方針を決める所では、ほとんど差がないと思います。連続堤防で守るなどの対策を考える時、溢れたあとの状況を考えることが必要で、上流の非拡散型、下流の拡散型等の特徴の違いを考えて工夫する必要があります。

・整備計画を議論する時は、確率規模の数字が変化すれば水位がどれくらい変化するのかを教えてもらえれば参考になります。

・流域の話をする時は、様々な目的や問題が絡むので、この委員会では様々なレベルの目標基準を出して議論する必要があります。すなわち、フレキシビリティーを持って他の目的と同様に議論をすることが必要であると思います。

・18ヶ所のポンプが一斉に排水すると、排水量はいくらになるでしょうか。ポンプはどこが設置しているのでしょうか。排水調整のルールがあるのか。それとも、庄内川の水位が高くなるから、自動的に排水が止まるのか等の仕組みについて教えて欲しい。

事務局

・総排水量は約350m^3/sで名古屋市と春日井市がポンプを設置し排水しています。一色大橋の桁下高で排水調整を行う協定を名古屋市と春日井市で結んでいます。

・流域委員会ということで、市街地側の話も重要になるわけで、市街化の進行が、内水の扱い方、流出形態等に影響を与え、河川計画そのものが変ってくると思う。そういう地域側との連携を考えて議論する必要があると思います。

・木曽川導水事業は中止になったわけですが、中止になった効果の受け皿はどのように考えられていますか。

事務局

・木曽川導水事業中止により、新川の整備計画の中でも検討・調整されると思います。新川と庄内川は密接に連携しているため、愛知県との調整が必要だと思います。

・堤防整備率や河積の狭い区間等具体的な説明をする場合、平面図や縦断図、それに関わるデータを一緒に図示すると一目でわかりやすいと思いますので、そのように資料作成をしていただきたいと思います。

○ PI関連の動向について

土岐川庄内川コレカラプロジェクト地域懇談会の実施状況について報告しました。

・整備計画で何を行うのか等の、流域委員会としての考え方を市民に答えるための議論をしたいと思います。
また、ステッカーアンケート等の市民の意見をどのように扱うかについても議論したいと考えています。

次回の予定について

平成15年12月中旬開催予定です。
「現計画と事業状況」（利水・環境・人との関わりについて）を議題とする予定です。